

10月24日（土）、一般社団法人アクラス日本語教育研究所代表理事の嶋田和子氏を講師としてお招きし、言語教育研究センター主催ファカルティ・ディベロップメント講演会「プロフィシエンシー重視の日本語教授法～『できる日本語』で、教師・学習者はどう変わったのか？～」を開催しました。学内・学外の日本語・言語教育全般に関心のある教員・学生など約60人が来場しました。



本講演では、まず、日本語教育において言語構造に重きを起いた知識偏重型の授業からシフトして、コミュニケーション力重視の授業が提唱されるようになって、相変わらず言語形式重視、教師主導の教え込み方式から抜けきれないという現状の指摘がありました。そして、そのような状況から脱却すべく作られた『できる日本語』という教科書の作成過程についてのお話を伺いながら、教師の言語教育観を変えることの大切さを考えました。『できる日本語』シリーズの教科書が目指すプロフィシエンシー重視の教授法とは、「はじめに文型ありき」ではなく、場面や状況を大切にして文脈化を図った上で、「自分のこと／自分の考えを伝える力」「伝え合う／語り合う力」、すなわち日本語による「対話力」「人とつながる力」を養うものです。講師の嶋田先生の、教科書や学習者のビデオや作文などの実例を盛り込んだパワフルで情熱的なご講演に時間はあっという間に過ぎました。教師が教え込むのではなく学習者に考え気づかせ自律的な学びを大切にし、教師も学習者も授業に対して「わくわくする」ことが重要であるという嶋田先生のメッセージに、受講者は大いに刺激を受けました。